

アメリカ的な「粉もの」pancakeとspaghettiとpretzelのメタファー

— メタファーは人間の認知能力の限界を補う —

大西 博人

0. はじめに

本稿では、英語ニュース・メディアや現代人気小説より得た、アメリカ人の身近な小麦粉を材料とする3種類の食べ物、パンケーキ、スパゲッティ、プレツェルについてのメタファーを取り上げる。これら3つのアメリカ的な食べ物に関するメタファーの用例を紹介し、各メタファーがどのような事象を表しているかを分析する。さらにこれらのメタファーが繰り返し用いられる理由を、メタファーの機能と人間の認知能力との関係で捉え、メタファーの存在意義を考察する。

1. アメリカ人の朝食の定番となっている pancake

今やパンケーキは、多少のレシピの差はあるものの世界中で普及している食べ物である。パンケーキは、小麦粉ミックスをオイルやバターを塗ったフライパンや鉄板上で焼くもので、日本でもホットケーキとしてなじみのあるものである。

パンケーキの歴史は古く、何世紀にもわたり世界中で多様なレシピで食されてきているが、最も初期のパンケーキは紀元前4世紀の中国にさかのぼると言われている。その後、中世に近東で一般的な食べ物となり、さらにヨーロッパへと広まっていったとされている。

現在の薄い円形のパンケーキの原型は、1897年にレストラン経営者のフランス人 Monsieur Joseph が発明したが、それが1920年代末から30年代初めにかけてフランスからアメリカに伝わったようである。また一説によると、パンケーキは19世紀末のアメリカで企業心のある奴隷が改良を加え、「Aunt Jemima パンケーキ粉」として売り出したことに由来するとも言われている。アメリカではパンケーキは、メープルシロップ、ブルーベリー、チーズなどをつけ、主に朝食で食されていて、「アメリ

カ人全体の代表的な食文化」となっている。

アメリカ人に身近なパンケーキは、大災害での建物の崩壊の状態、「平たくなる」「ペシャンコに押しつぶされる」という意味を表すメタファーとして繰り返し現れる。日本人の場合は、「センベイ」となるところである。

1. 1. ビル爆破に現れた pancake のメタファー

アメリカでは朝食で一般的になっているパンケーキは、その平たい形状のイメージにより建物が倒壊した状態を表すメタファーとして用いられる。まず、テロによるビル爆破事件に関する例を紹介する。(下線部は筆者による。以下も同じ)

① It has been three months since the World Trade Center towers pancaked into flaming ruins, ripping or burning down five other buildings on the 16-acre site. — *U.S. News & World Report*, December 31, 2001/January 7, 2002, p.63

2001年9月11日に起こった米同時多発テロで、世界貿易センタービルは、噴煙と炎を吐きながら最上階から下に崩れ落ちた。ここでは縦長の高層ビルが上部から崩れ落ち、パンケーキ状の重なり合いを強調している。

1. 2. 地震に現れた pancake のメタファー

パンケーキのメタファーは、地震で倒壊した建造物を形容するとき必ずといってよいほど現れる。爆破テロのメタファーとは異なり、あらゆる建物の倒壊に現れる。

② Most of the approximately 3,000 inhabitants of the town were housed in jerry-built apartment blocks dating from the Khrushchev era that were transformed within minutes into pancaked stacks of concrete and rubble by the heaving earth. — *Time*, June 12, 1995, p.24

1995年5月28日未明、サハリン島でM(マグニチュード)7.6の地震が起こり、かろうじて住民の三分の一が生き残ったが、死者は約2,000人以上に上った。当時、住民のほとんどが暮らしていたフルシチョフ時代に建てられたグニャグニャのアパートは、数分以内にコンクリートの瓦礫の層と化したのである。

1. 3. 交通事故に現れたpancakeのメタファー
パンケーキのメタファーは、「爆破や地震で折り重なって崩壊した建造物」に頻繁に用いられ、定着しているようである。しかし、このような崩壊状態を表現する以外に人の状態にも現れる。

③ “Simms covering the police beat. Phoned it in this morning. The shrink was crossing the street from a parking lot to his office—a car came off the curb fast—maybe the driver didn’t see him—smacked the pedestrian on the left leg and side, real impact, threw him thirty feet and pancaked him against a parked vehicle—then took off. — Irving Wallace, *The Almighty*, A Dell Book 1982, p.344

これは現代人気小説の場面である。ここでは一台の車が歩行者の身体の左側に当り、9メートルほど吹っ飛ばして駐車中の別の車に押しつぶしたと描写している。歩行者が打ちのめされた状態をpancakedと表している。

2. パスタ(スパゲッティ)の国別消費量が一番のアメリカ

世界中で食べられているパスタの起源は、古代エジプト説、中国説、ナポリ説などがあるが、現在のよう干したパスタが初めて食卓にぎわしたのは、13世紀のジェノバであると言われている。16世紀にトマトがヨーロッパに伝わると、パスタのよきパートナーとなった。イタリア中に定着したパスタは、17世紀半ばを過ぎる頃から、世界に広まっていた。パスタは、イタリア移民によって19世紀末から20世紀初頭にかけてアメリカに持ち込まれた。今やアメリカのパスタ産業は、イタリアに次いで世界第2位である。一人当たりのパスタ消費量はやはりイタリアが一番、アメリカは二番であるが、国別の消費量ではアメリカが一番である。

このようにアメリカで大量に消費されているパスタは、一般のアメリカ人にはアメリカ起源の料

理と考えられているほどである。パスタの原料は、主としてデュラム小麦粉から作られる「デュラム・セモリナ」である。パスタは製造工程で用いる鑄型により、マカロニとスパゲッティに分かれる。spaghettiはイタリア語 spaghetti の複数形で、「ひも (little strings)」を意味する。

アメリカにすっかり定着したスパゲッティは、イタリア語の語源が「ひも」であるため「ひも状のもの」を指すメタファーとして現代英語の中によく顔を出す。

2. 1. 「束ねられたひもや線状のもの」を表す spaghetti のメタファー

スパゲッティのメタファーは、当然のことながらスパゲッティの形状に似たものに用いられている。つまり、ひも状や線状のものに用いられることが多いようである。

④ All it takes is one glance at the spaghetti of cords behind a desk or TV stand to grasp the appeal of wireless technology. Cellphones have shown us you can cut the cord, and now we want all of our devices to meet that standard of flexibility. — *U.S. News & World Report*, September 27, 2004, p.48

この記事は、「机やテレビの裏側に束ねられたように設けられているコード線(cords)」をスパゲッティのメタファーで言い表している。ここでの論調は、携帯電話のようなコードレス技術を是認するものである。

⑤ But when he turned to the portal that led to Soyuz in order to begin prepping the ship, he was brought up short by the spaghetti of cables and ducts that confronted him. These are the umbilicals that carry power and air from Mir to Soyuz. — *Time*, November 3, 1997, p.45

これはロシアの宇宙船ソユーズとドッキングしている宇宙ステーション「ミール」が故障したため、修理に取りかかる様を報じたものである。アメリカ人宇宙飛行士 Michael Foale が、修理の準備に取りかかるためにソユーズのメインドアに向かったとき、そこがミールからソユーズに電力と空気を運んでいる「ケーブル線や管の束」によってふさがれていた為、作業空間が十分に確保されていなかった。その束をスパゲッティで表している。

2. 2. 「ハイウェイ」を表す spaghetti のメタファー

スパゲッティのメタファーとしては、形状が実際に似ているワイヤー、コード線、管などの「ひも状のもの」に多く用いられているが、高速道路網にもこのメタファーが現れることがある。

⑥ If this all sounds very Big Brother, it is. The dark side of the grid has been explored by writers from George Orwell to William Gibson and Philip K. Dick, whose 1956 short story "Minority Report" inspired the movie, in which the grid is ubiquitous, bombarding the hero with personalized ads and allowing police to find his car in the spaghetti of automated highways around Washington, D.C. — *Newsweek*, September 16/September 23, 2002, p.61

これは映画『マイノリティー・レポート』の一場面で、近未来の首都ワシントンを取り巻いている「自動操縦できる自動車専用道路網」をスパゲッティのメタファーで表現している。この道路網はスパゲッティに似ていないが、遠くから眺めるとひも状に見えるからであろう。ここでは無秩序に入り組んでいる様にも焦点を当てている。

3. アメリカ人に身近なスナック菓子 pretzel

ウィキペディアによると、「プレッツェルは、独特な結び目の形に作られている焼き菓子のひとつで、パンでもある。南ドイツの町、例えばヴィースバーデンでは、他の町で焼きソーセージとパンをファーストフードとして売っているところで、これを売っており、軽食として人々は食べている。アメリカのプレッツェル市場は1億8000万ドルを越える巨大な産業である」とある。プレッツェルは、柔らかく焼き上げたものと固く焼いたものがある。固いものは、袋詰めにしてスーパーで一般的に売られているスナック菓子である。材料は小麦粉で、ひもを結んだ形に焼き上げ、塩をふってある。

平均的なアメリカ人とは、プレッツェルをつまみとしてビールを飲む男であると考えられているが、これはビールとプレッツェルがアメリカ人一般につきものであることを示している。2002年1月13日、ブッシュ米大統領がテレビを見ながら食べていた pretzel でのどを詰まらせ、一時的に失神した。ホ

ワイトハウスの医師によると、失神の原因は胸に詰まったプレッツェルのため激しく咳き込み、迷走神経が刺激され、それが血圧と心拍数を下げたため起こる一般的な反射反応であるということであった。(cnn.com, January 14, 2002) ブッシュは禁酒家であるので、ビールは飲まずにテレビでスポーツを観戦しながら硬いスナック菓子を食べていたのがあった。大統領から一般人まで人気のあるこのアメリカのジャンクフードは、しばしばメタファーとして現れる。

3. 1. 具象物に現れた pretzel のメタファー

プレッツェルは、直喩と同様にメタファーとして用いられることが多くある。メタファーの対象となるものは、具象物と抽象物との両方にわたっている。⑦ Politeness abandoned, the attendant seized T.J.'s right arm, twisted it into a pretzel, and pushed him into the anonymity of darkness. — Thomas Thompson, *Celebrity*, Warner Books 1983, p.267

この小説の例は、酔っ払った相棒をレストランから外に連れ出す場面である。相手を無理やり外に押し出すために右腕を捻じ曲げたのを、プレッツェルの「ねじれ」のイメージで表現している。

⑧ Marine brides find themselves alone soon enough. Take Sally Brown, 22. She's a legal receptionist whose husband of two years shipped out last week to man his gunnery position on top of an amphibious Amtrak vehicle. Now her stomach is a pretzel. He couldn't even tell her where he was going. — *Time*, February 17, 2003, p.56

これは先週イラクへ出兵した、結婚間もない海兵隊の妻の心境を伝える記事で、単純明快なメタファーを用いている。彼女の「お腹がプレッツェルになっている」と表現し、夫を出征させた妻の心配と苦悩をお腹で表し、さらにそれを入り組み捻じ曲がっているプレッツェルに喩えるメタファーとなっている。

3. 2. 抽象物に現れた pretzel のメタファー

このメタファーは、具体物だけでなく抽象物にも現れる。メタファーには未知のものや理解し難い内容を、既知のものを通して具体的に作る働きがあることを考えると、メタファーは抽象物に用いる方が

効果的である。

⑨ The president seems continually in the act of bending himself into a pretzel, whether it be over Bosnia or the selection of a new chief for the National Endowment for the Arts or his never-ending effort to keep the contending wings of the Democratic Party happy. — *Newsweek*, May 24, 1993, p.16

これはこまかな意味論的な理由を持ち出し、次々と自己弁護する性癖で悪名を馳せ、“Slick Willy” (言い抜けウィリー) と呼ばれたこともあったクリントン大統領についての記述である。彼がどのような政策や決断に関しても絶えず考えや主義主張をころころと変えたことを言い表すために、「自分自身の立場を曲げてプレッツェルになる」と表現している。このメタファーは、クネクネと身体を曲げるようにして、言い訳をするという抽象的な行為を、プレッツェルを通してまざまざと描き出している。ここでは、自分に有利なように立場や政策を変える習性がある政治家の変更や変身ぶりを、プレッツェルのねじれや曲がりになぞらえているのである。

4. まとめ

本稿では、アメリカ的な「粉もの」のメタファーを紹介したが、何故、メタファーが頻繁に用いられるのであろうか。その理由は、人間の外界認知能力の限界が関係していると思われる。

ブラック (Max Black 1962: 39-41) は相互作用説の中で、メタファーの理解には「連想された通念の体系 (system of associated commonplaces)」という概念を知っていることが必要であると説いた。彼はメタファーが「効果をあげるのに大切なことは、その通念が真実であることではなく、それがすみやかに、かつ自然に想起されることである (佐々木 1986: 17)」とも述べ、それを通して対象を認識するためのフィルターになぞらえている。「パンケーキ、スパゲッティ、プレッツェル」の「通念の体系」は、これらの形状や日常生活での身近な経験やそれらが人々に呼び起こしたイメージなどが相互に作用し合った総体であり、これが対象物の認識を容易にしているのである。

レイコフとジョンソンがメタファーの機能に触れて、「あらかじめ孤立した類似点が存在すること

や、新しい類似点が創り出されることなどが必然的にふくまれている」と述べている。「パンケーキ」と「ベシヤンコとなった建物など」、「スパゲッティ」と「コード、ケーブル、高速道路網など束ねられた線状のもの」、「プレッツェル」と「複雑にねじ曲がった状態」などの間には、あらかじめ類似点があるため、両者の相互作用により新しい類似点が生み出され、実感を伴う外界認識を容易にしているのである。

彼らは、人間の概念体系は「メタファーによって構造を与えられ、規定されている (1986: 7)」と述べ、人間が言語を用いて思考や概念を表現しようとするとき、メタファーが欠かせないことを指摘している。一言で言うと、「メタファーは理解という人間の行為にとって欠くべからざるもの (1986: 277)」であり、人間はメタファーなくしては現実を認識できないということである。菅野 (1985: 249) はメタファーの働きを「人間に内在している認知能力の限界を補うもの」と捉え、この限界を「認識的苦境」と言い、「真理への適中であるより、むしろ真理のつじつま合わせ」をするためにメタファーを用いると説明している。その限界を補う働きがメタファーなのである。それ故、メタファーは人間の認知能力の限界を補う装置であると言える。

参考文献

- 佐々木健一 (編) (1986) 『創造のレトリック』 勁草書房
 社団法人全日本マカロニ協会 (編) (1983) 『パスタ専科』 ミリオン書房
 菅野盾樹 (1985) 『メタファーの記号論』 勁草書房
 レイコフ, G./ ジョンソン, M. 渡辺 / 楠瀬 / 下谷 (共訳) (1986) 『レトリックと人生』 大修館書店
 Black, Max. (1962) *Models and Metaphors*. Ithaca, New York: Cornell UP.
 Lakoff, G., and M. Johnson. (1980) *Metaphor We Live By*. Chicago: U of Chicago Press.

(兵庫県立星陵高等学校教諭)